

あなたの寄付が、ありのままをあたりまえにする力になります

例えば……

毎月3,000円の寄付で

就活生等4人にキャリアカウンセリングを提供できます。



毎月5,000円の寄付で

LGBTQの授業を125人の生徒に届けられます。



毎月10,000円の寄付で

教材を届け、12校を安全な学校環境にできます。



※1年間のご寄付を続けられた場合

個人として支援をする

🌸 マンスリーサポーター「にじいろバトン」で支援をする

月1000円から継続寄付で、ReBitの応援団になってください。

🌸 自由な金額で支援をする

100円から、1回でもご寄付ください。その一歩が社会を変える原動力に。

🌸 遺言による寄付・相続財団からの寄付

少額からのご寄付も可能です。まずはご相談ください。



クレジットカード決済でReBitホームページから簡単にお手続きできます。
<https://rebitlgbt.org/donation/>

法人・団体として支援をする



ご寄付を通じて、LGBTQもありのままで未来を選択できるを応援ください。活動報告会や社員ボランティア機会を通じ、LGBTQに関する理解を深める機会を共につくりさせていただくこともできます。
<https://rebitlgbt.org/donation/corporate-donation/>

寄付額の最大約50%が戻ってきます

ReBitは、東京都の認定を受けた認定NPO法人です。ご支援いただくみなさまは、所得税、法人税、相続税などで税制上の優遇措置を受けることができます。

認定NPO法人ReBit (りびっと)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-26-2 新宿カメヤビル4階

取引銀行：三井住友銀行 武蔵境支店 普通預金 0596883

理事 (2025年度)：薬師 実芳 (代表理事) / 中島潤 (事務局長) /

レイモンド・ウォング / 猿渡 由実子 / 中島 満香

監事 (2025年度)：国見 健介

本資料は2025年度公益財団法人三菱財団 社会福祉事業・研究助成により作成しています。

※資料の中のコメントは、一部仮名で記載したり、個人が特定されないように編集したりしています。

Mail: info@rebitlgbt.org

X: @Re__Bit

FB: <https://www.facebook.com/Re.Bit.LGBT>

HP: <https://rebitlgbt.org>



◆★✚⬢ ReBit

認定特定非営利活動法人ReBit

Annual Report 2025

2025年度 活動報告書

About ReBit

LGBTQもありのままで未来を選べる
社会をつくる、認定NPO法人

ステートメント

人はちがいでできている。性格もちがえば、好きなものもちがうし、得意なこともちがう。だれひとり同じ人なんていないはずなのに。
自分が自分であることで生きづらくなる人がいるのは、なんでなんだろう。
そんなあたりまえが変わったら、どんな社会になるだろう。
LGBTQを取り巻く今から、考えてみたい。
LGBTQを含む、すべての人たちが、ありのままで未来を選べる社会を目指して。
ReBitは、少しずつを、何度でも、みなさんと一緒に進み続けます。

◆ ご挨拶

★ 社会の変化を「半径5メートル」の日常へ

幼い頃から性別違和を抱えながらも誰にも相談できなかった経験から、「誰もがありのままで未来を選べる社会」を目指し、20歳でReBitを立ち上げました。あれから16年。かつては「うちの学校にLGBTQの子もなんていない」と100校連続で授業を断られた時代から、2025年度はすべての中学校教科書に「多様な性」が掲載される歴史的な年となりました。学校・企業・自治体でも取り組みが広がり、社会は確かに変わり始めています。

一方で、2025年にReBitが実施した約5,000人のLGBTQ子ども・若者調査では、中高生の9割が過去1年間に学校で困難を経験し、10代の2人に1人が希死念慮を抱いたことが明らかになりました。社会の変化を、子どもたちの「半径5メートル」の安心へとつなげるには、まだ多くの取り組みが必要です。

だからこそ2025年度は、NPOのリーダーシップ伴走を通じ、子どもたちが暮らす地域を共に変える「まちづくり事業」に注力してきました。全国どのまちでも、LGBTQの人たちも未来を諦めずに生きられる社会へ。これからも、少しずつ (Bit) を何度でも (Re) 繰り返し、皆さまとともに歩みを進めてまいります。今後ともご伴走をよろしくお願い申し上げます。



ReBit 代表理事 (社会福祉士・精神保健福祉士・キャリアコンサルティング技能士2級)

薬師 実芳

LGBTQもありのままで未来を選べる社会を目指し、2009年にReBitを設立。ダボス会議が選ぶ「世界の若手リーダー」に選出。早稲田大学大学院教育学研究科修了 (修士)。

◆ 沿革

- 2009.12 大学内でのイベント開催をきっかけに、早稲田大学の学生団体としてReBitを設立。
- 2010.6 初めての出張授業を実施。
- 2012.1 「LGBT成人式」を開催。その後、全国17地域へと広がる。
- 2013.8 LGBTQの学生・若者に向けた就労支援やキャリアイベントを開始。
- 2014.3 NPO法人化し、活動の拡大と組織基盤の強化に向けた第二創業期へ。
- 2014.4 企業や就労支援者向けの研修を開始。職場環境や就労支援の現場における変化を後押し。
- 2016.10 LGBTQ等ダイバーシティ推進に取り組む企業が集う「RAINBOW CROSSING」を初開催。
- 2017.3 教職員向け教材「Ally Teacher's Tool Kit」をリリースし、学校での授業実践を支援。
- 2018.7 認定NPO法人となり、より多くの人々とともに進むための基盤を強化。
- 2018.10 LGBTQ分野に取り組むユースリーダー育成プログラム「diverseeds」を開始。
- 2021.12 就労移行支援事業所ダイバーシティキャリアセンターを東京に開所。
- 2023.12 大阪市内に、ダイバーシティキャリア大阪を開所。
- 2024.4 自治体伴走支援と地域NPOリーダーへの中間支援を担う「まちづくり事業部」を設立。

◆
● ReBitの事業

LGBTQもありのままで「学び・働き・暮らせる」社会づくりのため、以下4事業に取り組んでいます。

01
学びを広げる
教育事業

LGBTQもありのままで大人になれる社会に向けて、学校での授業実施や教材制作、教職員養成や学校の実践伴走、LGBTQユースのリーダーシップ育成を行います。

02
働くを応援する
キャリア事業

LGBTQも自分らしく働ける社会に向けて、キャリア支援や、企業研修・コンサルテーション、キャリア支援者の養成を行います。

03
暮らしを支える
福祉事業

LGBTQも安全安心に福祉資源を利用できる社会に向けて、精神障害や発達障害があるLGBTQも安心して利用できる障害福祉サービス(就労移行)の運営や、福祉職養成や教材制作を行います。

04
暮らしを支える
まちづくり事業

どのまちでも、LGBTQも安全に暮らせる社会に向けて、自治体のLGBTQの取り組み伴走や、地域のLGBTQ団体の中間支援を行います。



★
● 2025年度ReBitハイライト

子ども・若者の今を可視化し、学びと暮らしを守る

★
● **全中学校教科書に掲載。
授業・研修は約1.1万人へ**

多様な性に関する内容が全中学校教科書に掲載された歴史的な年。学校・行政等で88回、約1.1万人に授業・研修を行い、教材2200点、動画2.1万回再生を通じて安全な学校づくりを後押ししました。



● **LGBTQ 子ども・若者調査を実施し、文部科学省で会見**

約5000人に回答をいただいた「LGBTQ子ども・若者調査」を実施。10代の約2人に1人が過去1年間に自殺念慮を抱くなど、深刻な実態を公表し、30媒体以上で報道されました。



● **絵本『これがじぶんのいろ』
シリーズ全3冊を翻訳出版**

ジェンダー平等と公平をテーマにした絵本を、ゆまに書房より翻訳出版。授業で活用できる指導案・投影教材・動画教材等も制作し、無料公開しました。



★ **UNESCO と協働し、次世代のユースリーダーを応援**

UNESCOと協働し、全国8地域・39名を対象にユースリーダー育成プログラムを実施。あわせてYouth Forumを開催し、ユースの現状や声、地域での実践を広く社会に届けました。



★
2025年度ReBitハイライト

★
2025年度ReBitハイライト

生きづらさに寄り添い、自分らしく生き、働ける社会へ

喫緊の状況にある LGBTQ
約 6,500 名に生活・就労支援

いじめや就労困難等の社会的障壁の影響により、LGBTQは精神障害や生活困窮の高リスク層にあります。こうした困難を抱えるLGBTQを主な対象として、のべ約6,500名に生活・就労支援を届けました。



「ダイバーシティキャリア」
東京 4 周年・大阪 2 周年

日本初のLGBTQフレンドリーな就労移行支援事業所「ダイバーシティキャリア」は、地域に根差し、障害のあるLGBTQの生き方・働き方を支えています。



企業・医療・福祉等の事業者
に、約 1.5 万人へ研修・啓発

企業研修、人事制度設計や相談体制づくりへの伴走、医療・福祉の支援職向け啓発を通じて、LGBTQの自分らしい生き方・働き方を後押ししました。



国内最大級のダイバーシティ・
キャリアフォーラム 10 周年

企業29社の出展のもと、厚労省・文科省の後援、JobRainbow社との共催により開催。来場220人、配信20万回再生を通じて、多くの若者の「自分らしく働く」を応援しました。



自治体・地域の担い手と協働し、地域に変化を広げる

約 450 の自治体に伴走、
安全に暮らせるまちを全国へ

LGBTQやダイバーシティ分野の施策づくり等を通じ、約450の自治体に知見を提供。3カ年にわたり伴走した静岡県掛川市では、全庁的なダイバーシティ計画の策定や職員研修、市民向けイベント等を実施しました。



自治体の実践をつなぐ、
まちづくりシンポジウムを開催

世田谷区長をはじめ、各地で取組を進める自治体のみなさまにご登壇いただきました。自治体による実践や好事例を共有する場となりました。



全国のべ 135 の LGBTQ 団体
を支え、地域の担い手を応援

中間支援団体として、経営支援や助成を通じて全国のべ135団体を支援しました。内閣府の交付金や休眠預金をいただき、地域の担い手育成を進めました。



Forbes JAPAN 「NPO50 選」
に選出

社会課題解決の最前線と実装を担うNPOとして評価をいただきました。これからも、少しずつ (Bit) を何度でも繰り返し (Re)、邁進します。みなさまの応援に、心より感謝申し上げます。



★ 学びを広げる
 ● **教育事業**



- LGBTQもありのままで大人になれる社会に
 学校での授業や教材づくりを通じて理解を促進し、
 教職員が安全で包摂的な学校環境をつくる支援を行います。

LGBTQは学校でいじめ等の困難に直面し、不登校や自死念慮における高リスクです。教職員の学ぶ機会が不足し、包摂的な学校環境の整備が十分にできていません。

先生が授業中に騒いでいた男子2人に「お前らイチャイチャすんな、ホモか!」と注意して、クラス中がどっと笑った。バレないように一緒に笑ったけど、自分のことを笑っているようで辛かった。(ゲイ)

中学のとき、いじめられていた。「男みたいできもい」「本当に女なの?」と制服を脱がされたり、上履きをトイレに入れられたりした。(トランスジェンダー男性)

いじめや暴力を経験したLGBTQ^{*1}

68%

この1年に自殺念慮を経験した10代LGBTQ^{*2}

54%

LGBTQについて教員養成課程で学んだ教員^{*3}

13%

*1いのちリクエスト。ホワイトリボン・キャンペーン(2014)平成25年度東京都地域自殺対策緊急強化補助事業「LGBTQの学校生活に関する実態調査(2013)」
 *2認定NPO法人ReBit(2025)「LGBTQ子ども・若者調査2025」 *3認定NPO法人ReBit(2023)「学校における性的指向・性自認に係る取り組み及び対応状況調査」

★
 ● ReBitの取り組み

1. 授業・研修

多様な性を通じて多様性を学ぶ体感型の授業や研修を、全国の学校や教育委員会で展開しています。



2. 調査・教材制作

学校教科書や書籍の監修・出版に取り組むとともに、LGBTQの子どもと学校に関する国内最大級の調査も実施しています。



3. 学校環境を変える

LGBTQも安心して過ごせる学校づくりのため、教職員向けに勉強会や個別相談を実施しています。また、先生方がすぐに使える教材キット「Ally Teacher's Tool Kit」の開発や、情報サイトの運営を通じて、学校現場をサポートしています。



学校 / 行政へ授業 / 研修を提供した回数・人数

1691回
23.5万人



教材の発行部数、再生回数

6万部
24.8万回

🗣️ **教材を使った 佐々木先生**

クラスの中で、いわゆる「オカマネタ」がでたことをきっかけに、多様な性についての授業をしようと考えはじめました。どのような授業をしていいかわからず検索していたところ、Ally Teacher's Tool Kitを見つけました。学習指導案や映像動画、配布プリントまで揃っていて、安心して授業ができました。



🗣️ **授業を受けた ひかるさん**

小学生のときからずっと性別に違和感があることを誰にも言えず、「自分っておかしいのかな」とずっと悩んでいました。高校の時にReBitが学校に来て、授業をしてくれたことをきっかけに、「自分のままでいいんだ」と思えました。



+ 働くを応援する

キャリア事業

- LGBTQも自分らしく働ける社会に
LGBTQのキャリア支援と、企業への研修やコンサルテーションを通じた
安全な職場環境づくりに取り組みます。

LGBTQは就職活動や就労時に困難やハラスメントに直面することが多いです。しかし、支援者の無理解等から、安心して相談支援を受けられません。

同僚に同性パートナーがいることを伝えたら職場で
アウトイング(暴露)され、上司から嫌がらせを受け
るように。職場のハラスメント窓口でも対応してもら
えず、うつになって、退職した。(レズビアン)

就活面接でカミングアウトしたら「帰
れ」と言われた。帰りの電車でただただ
泣いた。(トランスジェンダー)

就活時にSOGIに由来した困難
を経験したトランスジェンダー^{*4}

78%

LGBTQへ支援を適切に
できなかった支援者^{*5}

89%

就労支援機関に相談
できなかったLGBTQ^{*4}

96%

^{*4} 認定NPO法人ReBit (2025) 「LGBTQ子ども若者調査2025」
^{*5} 認定NPO法人ReBit (2023) 支援者のLGBTQ意識調査

+ ReBitの取り組み

1. 自分らしく働く支援

LGBTQを含む多様な背景を持つ人々が、自分らしいキャリア
を築けるよう、キャリア支援を提供しています。
また、国内最大級のダイバーシティと就労に関するキャリア
フォーラムの運営にも取り組んでいます。



2. 職場を変える・つなぐ

企業向け研修や人事制度設計などのコンサルティングを通
じ、職場でのLGBTQやダイバーシティを尊重する環境づくりを
支援しています。



3. 就労支援者の養成

厚生労働省大臣指定の国家資格キャリアコンサルタント更
新講習や教材制作を通じ、LGBTQも支援できる就労支援者の
育成に取り組んでいます。



企業 / 就労支援者
研修回数・人数

620回
10万人



キャリア支援を
した人数

2.65万人



キャリアイベント
参加人数(オンラ
イン再生含む)

160万人

🗣️ キャリア相談をした あおいさん

他のキャリア相談では、いかに根底にある
自分の経験をごまかすか考えながら話してい
ました。この相談では、セクシュアリティに
関する自分の経験もごまかすことなくお話で
きたので、自分の考えを整理できました。今後、
困ったことがあってもここに相談できるという
安心感を手に入れられてよかったです。



🗣️ 企業研修を受けた 人事の田中さん

言葉としては知っているつもりでも、実情
を全くわかっていなかったと感じました。
整理された理論とLGBTQの社会人の個々
の声のバランスが良く、良い機会でした。職
場でアライが増えるよう、これからも取り組
んでいきたい。



暮らしを支える

福祉事業

- LGBTQも安全に福祉サービスを利用できる社会に
精神障害や生活困窮など複合的な困難があるLGBTQを支援するため、
日本初のLGBTQフレンドリーな就労移行支援事業所（障害福祉サービス）の運営や
福祉職の育成を行います。

LGBTQは、社会的な無理解等から、精神障害や困窮に直面しやすいです。しかし、福祉利用でも
困難やハラスメントが多く、安全網であるはずの福祉を安全に利用できていません。

職場でセクシュアリティをアウティング（暴露）され、
精神障害になり退職した際、障害福祉サービスを利用した。退職の経緯とともにセクシュアリティを伝えたら、勝手に他の支援者に伝えられ、不信感により病状が悪化し、利用ができなくなった。（ゲイ）

生活保護開始時、行政職員や福祉サービスの担当者もあまりに知識や理解がなく、必死で治療の必要性を伝えても、誰一人として理解してくれず、失望し自殺未遂をした。（トランスジェンダー）

LGBTQの精神障害経験
（過去10年）*5

41%

LGBTQの生活困窮経験
（過去10年）*5

46%

LGBTQの行政・福祉サービス
での困難経験*5

78%

*5 認定NPO法人ReBit (2023) 「LGBTQ医療福祉調査2023」

ReBitの取り組み

1. 現状を明らかにする

LGBTQの医療・福祉の現状調査や福祉職の意識調査など、LGBTQと福祉に関する多岐にわたる調査を実施しています。



2. 福祉機関の支援と伴走

福祉サービスがLGBTQも安心して利用できるものとなるよう、支援者の養成を目的とした研修や、福祉機関向けのeラーニング等の資料を作成しています。



3. 安心できる福祉の運営

日本初のLGBTQフレンドリーな就労移行支援事業所（福祉サービス）「ダイバーシティキャリア」を運営。精神障害など複合的な困難があるLGBTQも、自分らしく働き暮らせる社会を目指し、福祉に取り組んでいます。



ダイバーシティキャリア

ReBitが運営する、障害がある方や定期的に通院している方の就職活動や復職を支援する福祉サービスです。

福祉職や心理職による多様性に寄り添った個別支援に加え、就労に役立つ多彩なスキル講座や、ダイバーシティ推進企業との豊富な連携実績が特長です。



就労移行の利用者 はるさん

初めて、障害もセクシュアリティも安心して相談ができました。初めて呼ばれたい名前前で呼ばれ、初めて着たい服を着られました。スタッフや講座を通じてたくさんのロールモデルと出会えて、自分のままで生きて働いていいんだって思えました。



相談者 あきさん

精神障害があるというだけでも地元では生きづらいのに、トランスジェンダーだなんて言ったらもう生きていけない。でも、精神障害で働けずお金もないので、東京に引っ越すことはできないし。地元で相談できる場所もなく、自殺未遂を繰り返していましたが、この相談を知り、つながれて安心しました。



暮らしを支える
まちづくり事業

- どの地域でも、LGBTQも安全に暮らせる社会に
行政のLGBTQの取り組みに関する白書制作や、施策推進の伴走支援を行っています。
また、各地でLGBTQ分野に取り組む団体への中間支援組織として、リーダーシップを応援します。

2023年にLGBT理解増進法が制定され、自治体のLGBTQの取り組みが努力義務と定められました。
自治体の取り組みの機運が高まる今、自治体の好事例共有や担当者伴走、地域団体への中間支援と行政連携の推進等を行います。

災害時、同性パートナーと仮設住宅への入居が認められず、一緒に暮らせませんでした。また別の機会には、パートナーの手術の際、地域の拠点病院で家族として扱ってもらえず、付き添うことすらできなかった。この地域で同性パートナーと家族として暮らすことは、あまりにも難しい。(レズビアン)

「男はこうあるべき」という認識が強い地域で、自身がトランスジェンダー女性であることを誰にも伝えられずずっと生活している。地域のなかでLGBTQの人たちが集うような居場所もなくて孤独感が強い。(トランスジェンダー)

ReBitの取り組み

1. 自治体との連携

ReBitは行政のパートナーとして、自治体の好事例の白書化や、多様性を尊重する施策の立案・実行における専門的なアドバイスと伴走支援を行っています。



2. 職員の啓発と伴走

自治体職員向けの研修や資料提供を通じ、庁内での理解を深める啓発活動を促進。また、全国のLGBTQ・ダイバーシティ推進担当者向けの定期勉強会で、好事例の共有を推進します。



3. 地域リーダー・団体支援

地域に根差したLGBTQの取り組みを強化するため、若手リーダー育成プログラム「diverseeds」を展開。また、各地のLGBTQ関連団体へ伴走支援や資源提供を行い、活動を応援しています。



連携した自治体
511自治体



育成した若者リーダー
27地域
94人

行政担当者 鈴木さん

LGBTQの知識もなく何から始めたらいいか迷ってました。ReBitの自治体職員向けの勉強会で他自治体の取り組みを聞き大変参考になりました。自分たちにもできることから始めたいと思い、住民向けのLGBTQ講演会を実施しました。これからも住民の皆様にとってより良い地域づくりを行いたいです。



リーダープログラム参加者 めいさん

自分の地域でLGBTQに関わる活動をしたのは自分だけだと思っていて、孤独でした。でも、diverseedsに参加したことで、同じ思いを持つ同世代の仲間や、応援してくれる大人たちとたくさん出会うことができました。そのつながりが大きな支えとなり、地域でLGBTQに関するイベントを立ち上げることができました。





◆ 開催レポート

01 先生たちと目指した、多様な性のあり方が包摂された学校環境づくり

2025年度の教育事業部では、LGBTQ/SOGIEインクルーシブな学校環境づくりを目指し、江東区立第三砂町小学校（児童数563人、浅野 努校長。以下、三砂小）の先生たちによる取り組みに伴走しました。

先生たちと年間スケジュールを作成、夏休みには教職員研修を実施

「まず教員が知ることから始めたい」という校長先生からのご希望があったため、夏休み期間を利用した教職員研修をReBitが実施し、多様な性のあり方が包摂された学校環境づくりについて、先生たちが学ぶ機会を設けました。全教職員が参加した研修では、「子どもや保護者から相談やカミングアウトを受けた際の適切な対応」「子どもたちが経験しやすいSOGIEに関する困りごと」そして「相談をしなくても子どもたちが安心できる環境づくりのために、先生ができる工夫」といった内容を扱いました。研修後には「自分の人権感覚がアップデートできた」「多様な性のあり方について学んだことで、自分の視点そのものが大きく変わった」といった声が寄せられました。三砂小ではその後、教職員アンケートを複数回実施し、環境づくりの進捗を確認したり、先生たち同士で取り組みに関するお互いの悩みを共有したりしました。回答結果はReBitにもその都度共有いただき、先生たちがハードルに感じていることについてフィードバックをしながら、校内での取り組みを進めていただきました。



独自の「アクションプラン」を作成、重点目標を掲げ継続的に実施

2学期以降の実践のために「アクションプラン」を作成しました。ReBitの教材『Ally Teacher's Tool Kit 安心な学校をつくろう編』の「アクションシート」をベースに、三砂小の重点項目を先生たちが選びました。「三砂小アクションプラン」には、以下が含まれました。児童を呼ぶときは全員を「さん」で統一/性別で分けない声かけを工夫する（例：「力持ちの人、手伝って」など）/児童が自分で選択できるように、選択肢を増やす（例：画用紙の色、学習ツールなど）/髪型や服の色・デザイン等は個人の自由であり、性別に関係ないことを児童に伝える/着替えやトイレで困ったら相談できることを児童に伝える/相談できる目印として教員はアライのステッカーを名札に挟む など。先生たちからは「教員が意識すると、子どもたちも『パートナー』と言うようになった」「順番の決め方は『誕生日順』にするなど、子どもたちにも変化が見られた」といった声が寄せられ、先生たちの意識の変化が子どもたちにもポジティブな影響を与えることが確認できました。



先生たちが再度研修を受講し、ReBitの教材を使用した授業を実施

授業をきっかけに、先生が児童から相談やカミングアウトを受けることもあるため、児童向け授業前の研修では、カミングアウトの範囲に関する児童本人への意思確認の仕方など、対応フローを共有しました。先生による授業が「ゴール」ではなく、多様な性のあり方が包摂された環境づくりに向けた「きっかけのひとつ」であることを確認しました。12月には5年生3クラスで、担任の先生が児童向け授業を実施しました。ReBitの教材『Ally Teacher's Tool Kit 小学校高学年で授業しよう編』を使いながら「多様な性のあり方」や「さまざまな『ちがひ』を尊重すること」について伝える先生の話や、子どもたちが一生懸命に聞きました。6色レインボーの話をしたり、いつでも相談していいよと伝えたり、クラスに多様な性に関する書籍を置いたり、先生たちがそれぞれのやり方で「この教室ではこれからも、多様な性のあり方が尊重されるよ」というメッセージを伝えていました。今回の取り組みを終えた三砂小では、毎年5年生に性の多様性の授業を実施することが決まり、多様な性のあり方が包摂された環境づくりは4月からスタートしていくそうです。



安心・安全な場をともにつくるための
グラウンドルール

- ① この場には、いろいろな「ちがひ」をもつ人がいます。それぞれの「ちがひ」を尊重しましょう。
- ② 発言や質問するときは、相手や周りの人がどう感じるか、想像してみましょう。
- ③ 他のだれかのことを勝手に決めつけたり、むやみに話題にしたり、勝手に広めたりしないようにしましょう。
- ④ 自分が言いたくないことは、言わなくて大丈夫です。
- ⑤ もし話したいことや不安なことがあったら、授業が終わってから相談できるので、安心してください。

ReBit All Rights Reserved. 2025

いつも一緒にいる先生だからこそ、できる工夫がある

LGBTQをはじめとした多様な性のあり方をもつ子どもたちは、どの教室にもいる可能性があります。子どもたちにとって一番身近な大人である先生が「あなたは、ありのままがいい」というメッセージを、日頃の声かけや環境づくりを通して発信し続ける。これは、子どもたちの現在、そして未来を守ることに直結しています。三砂小のように、まず先生たちが「正しく知り、考え、行動に移す」ことで、子どもたちが過ごしやすくなる環境は、どの学校でも確実につくれます。たとえば、名簿上の性別に基づいた「さん」「くん」の呼び分けで困る子どもたちがいますが、先生が意識を変えて「さん」で統一して呼ぶことは、今日からすぐにできる環境づくりです。きっと救われる子どもがどの教室にもいるはず。三砂小の取り組みは、「特別な学校」の「特別な先生たち」によるものではなく、どの学校でも今日から始められる希望のモデルです。教育事業部ではこれからも、全国各地の学校においてLGBTQも含めたすべての子どもがありのままに過ごせるよう、多様な性のあり方が包摂された学校環境づくりを実践して下さる先生を募集しています。





02

ユースが描く、誰もが自分らしくいられる「次なる社会」

2026年3月、LGBTQ/SOGIE Youth Forum 2026を開催しました。ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）と協働した「diverseeds2025」のユースリーダー37名が集結。半年間の活動報告と共に、直面する課題や変革への挑戦を語り合いました。

LGBTQ分野で変革に挑む若者を応援する「diverseeds」



diverseedsは、LGBTQ分野に取り組むユースリーダーの挑戦を応援するプログラムです。2018年の開始以来、「未来に多様性のタネをまこう」という想いのもと、これまでに60名のユースリーダーの取り組みを支援してきました。2025年度は、UNESCOと協働し、LGBTQに取り組むユースリーダーを応援しました。

取り組むプロジェクトは、学校や地域での居場所づくり、授業・イベント等の啓発活動、アプリやコンテンツ制作・配信など様々です。全国各地から28プロジェ

クト・58名の応募をいただき、そのなかから11プロジェクト・8地域・37名のユースリーダーを採択しました。採択されたユースたちは2025年9月から2026年3月にかけて、助成総額105万円の資金的支援とメンタリングや研修等を受けながらそれぞれの取り組みに尽力しました。「LGBTQ/SOGIE Youth Forum 2026」では2つのセッションにdiverseedsに参加した8名のユースが登壇しました。

「Z世代は寛容？」SOGIを自分事にしていくために

トークセッション1では「ユースが変わる、ユースが伝える」と題し、大学、医療現場、そして地域社会といった、それぞれのフィールドで「伝える」活動に取り組む4団体のユースが登壇しました。

トークセッションではZ世代がLGBTQに対し「寛容」と周囲から評される一方で、実態は知識が表面的な理解に留まっている現状があると登壇ユースから問題提起がされました。学校現場では、LGBTQが「探究学習」等の対象となっても、依然として「だれかの問題」や「お勉強」として扱われ、身近な当事者の存在が前提にはされていません。誰もが持つものである「SOGI（性的指向・性自認）」の概念を軸に、全員が自分事として捉える学びの必要性が話されました。そのために学習指導要領や各カリキュラムのなかで多様な性が位置づけられることで、誰もが学ぶことができる枠組みをつくっていくことが必要であるとユースたちから提案がありました。

地域と居場所、選択肢を増やすためにできること

トークセッション2では「ユースの居場所をユースがつくる」と題し、地域で居場所づくりや啓発に取り組む4団体のユースが登壇しました。

LGBTQユースの居場所は、安全性を最優先した当事者限定の場から、誰もが利用できるユニバーサルな場等、様々な選択肢が必要であることが登壇ユースから提起されました。セクシュアリティに関する悩みを持つ人同士で安心して話せる場所も、LGBTQユースの主体的な挑戦や多様な生き方の選択肢を提示するエンパワーメントされる場所もどちらも重要です。個人として尊重されるコミュニティとの出会いが自分らしく生きる大きな力となった経験も語られました。一方で、地方都市では匿名性や安全性の確保等も深刻な課題です。会場への出入りが周囲の目線や噂に繋がる懸念があり、公共施設を活用して出入りを目立たなくする工夫や、様々な地域で居場所を行うことで安心して利用できる場所を選ぶことができる工夫が共有されました。こうした活動を支えるスキルの習得には、地域のなかで居場所づくりを行っている先輩たちによる伴走支援や、福祉・教育などの他セクターとの連携が欠かせません。既存のユースセンターや公共施設が包括的な場へとアップデートされ、地域の中に多様なSOGIインクルーシブな拠点が点在することで、どの地域においても自分らしくいられる選択肢が増えていくことが期待されています。



ともにユースを応援していくためにできること

ユースだからこそ見つけられる課題や届く声、そして起こせる変革が確実に存在します。diverseedsに参加したユースたちの取り組みは、これからもそれぞれの地域やテーマで続いていきます。

ReBitは2026年度もdiverseedsを開催し、一歩踏み出す若者たちの挑戦を全力で応援していきます。多様な「種」が地域に根を張り、豊かな未来を創っていくその過程を、ぜひ温かく見守り、応援してください。共に歩んでいきましょう。



03

LGBTQも安心して暮らせるまちづくりを ともに考える

2025年12月、パートナーシップ制度開始10年を機に、自治体の歩みを総括するシンポジウムを開催しました。登壇者と約100名の参加者で先進事例を共有し、誰もが安心できる「次なる10年」のまちづくりを展望しました。

多様な性のあり方を前提とした、これからのまちづくり



2025年で、渋谷区・世田谷区が全国で初めて「パートナーシップ制度」を導入してから、10年という節目を迎えました。2023年には「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律（SOGI理解増進法）」が制定され、各自治体でLGBTQも暮らしやすいまちづくりに向け、パートナーシップ制度のみならず、教育・福祉・防災等、様々な取組みが進められています。

本シンポジウムは、この10年の歩みを総括しつつ、首長・自治体担当者・LGBTQ課題に取り組む各地の団体をお招きし、全国の自治体が直面している課題や、取り組みを行う自治体の先進事例を共有することで、「誰もが自分らしく安心して暮らせるまち」の次なる10年を展望することを目的に開催されました。

自治体実践事例の紹介 - 4自治体の先進事例から学ぶ

はじめに、独自の工夫により施策を推進する4自治体から、具体的な取り組みが報告されました。紹介された事例は多岐にわたり、外部専門人材の登用と当事者ニーズの反映による実効性の高い施策づくりや、産業・教育・医療などの分野を横断した「まちづくり全体でのテーマ化」が挙げられました。さらに、企業や大学とのネットワーク構築、学校現場での実践的な体制整備など、社会のあらゆる接点における包括的な取り組みの重要性も示されました。これらの施策の背景には、費用対効果や合理性にとどまらない「人権課題や社会を変えるという部分が公がやる責任」への言及や、一部の対象者に限定せず全住民の暮らしに関わる課題であるとの認識のもと、丁寧に取り組むを積み重ねていく真摯な姿勢が示されました。

また、自治体としてLGBTQ/SOGI課題についてどのようなアプローチで取り組んでいきたいのかによって、LGBTQ/SOGI課題に取り組む担当課をどこに配置するのかもちがうという戦略づくりについても言及されました。会場からも、自身の自治体での取り組みに活かしたいという声が寄せられ、有意義な共有の場となりました。

パートナーシップ制度10周年を迎えて、これからの10年を考える

続いて、2015年に日本で初めてパートナーシップ制度を導入した世田谷区の保坂展人区長が登壇し、NPO法人ReBitの薬師、中島と共に、これまでの歩みと未来への展望について対談を行いました。

保坂区長より、パートナーシップ宣誓制度の誕生エピソードや、世田谷区、そして社会全体の変化についてご共有がなされ、結びとして社会全体へ向けた以下のメッセージをいただきました。「パートナーシップ制度の20周年はお祝いしたくない、と申し上げました。それは、10年後には自治体独自の制度としてではなく、国の制度として当たり前同性婚が確立されていてほしいという願いからです。10年後も今と同じ議論を繰り返しているようではいけない。この歩みを、国全体、社会全体の変化へと繋げていかなければなりません。」

次の10年で、単なる法整備にとどまらず、私たちの「半径5メートルの暮らし」にある教育・福祉・医療・防災といったあらゆる場面において、LGBTQ当事者の存在が当たり前となり、生活そのものが変わっていく必要性が提示されたセッションでした。



誰もがありのままに暮らせるまちへ

テーマ別セッションでは「啓発・官民連携 / 相談支援 / 居場所づくり・交流拠点」に分かれ、LGBTQ課題に取り組む6団体の実践事例を共有いただき、LGBTQも安心して暮らせるまちづくりを実現するための協働を学びました。性の多様性を尊重するまちづくりにおける官民連携のモデルや自治体とLGBTQ団体が連携した具体的な相談体制の構築、自治体との協働による居場所づくりや啓発に関する実践事例が共有されました。

全国各地どの地域でもLGBTQの人々は暮らしていて、取り組みを必要とする人はいます。シンポジウムを通して制度や施策の裏側にある、関わる一人ひとりの「誰もが自分らしく暮らせるまちにしたい」という気持ちや行動は、地域を変える一助となっていることが示されました。本シンポジウムで共有された知見や熱量が、各地で活動を続ける皆様にとって、次の一歩を検討する手がかりとなれば幸いです。誰もがありのままに安心して暮らせる社会の実現に向けて、私たちReBitも皆様と知見を分かち合い、共に歩みを進めてまいります。

※詳細な開催レポートはQRコードよりご覧ください。



協働でできること

企業のみなさまとできること

500社以上のダイバーシティ推進を支援してきた実績と、LGBTQ・ジェンダー平等・障害の3領域における専門性を活かし、貴社の取り組みをサポートします。

1. 研修や人事制度構築を通じて、安心できる職場づくりを応援します

LGBTQ講師による社内研修やeラーニングの制作、また、同性パートナーがいる社員やトランスジェンダー社員を包摂した人事制度づくりに向けたアドバイジングやガイドラインの策定支援など、これまで500社以上の企業とともに、LGBTQ施策の実施・強化に取り組んできました。



2. 相談窓口の立ち上げや運営をサポートします

これまでに2万人のLGBTQからの相談支援を行ってきた実績を活かし、社員さま向け・お客さま向けのLGBTQ相談窓口の立ち上げをサポートします。また、運営ガイドラインの策定や、実際に相談が寄せられた際の助言・対応支援などを通じて、安心して利用できる相談体制づくりをお手伝いします。



学校・教育関係者のみなさまとできること

教育現場でのLGBTQへの理解促進と環境づくりを支援しています。授業づくりから相談体制の整備まで、先生方とともに取り組みを進めます。

1. 教えることをサポートします

LGBTQ講師による授業の実施(のべ1500回)や、先生が授業でLGBTQについて教える際の無料教材の提供(のべ5万部)を通じて、多様な性やLGBTQについて「教えること」を応援します。



2. 学校環境・相談体制づくりを支援します

LGBTQも安心して過ごせる学校環境を実現するために、無料の資料キットや教職員向けオンライン勉強会の実施、相談対応に悩む先生や学校への個別相談や伴走支援など、現場に寄り添いながら包括的な支援を提供しています。



行政のみなさまとできること

LGBTQやダイバーシティ推進に関する施策策定や実行といった実践的な伴走支援を、280以上の自治体で行ってきました。

1. 施策担当者の支援の実施

施策をご担当される職員さま向けの無料勉強会や、自治体向けの無料相談を実施。日々の業務の中で生まれる疑問や課題に寄り添い、地域の実情に即したかたちで、継続的な支援を提供しています。



2. 庁内外の理解促進と具体的な取り組み支援

職員向けの研修実施や、市民向けイベントの企画・運営支援、啓発資料の監修などを通じて、自治体全体としてLGBTQやダイバーシティ施策推進の具体的な取り組みをサポートしています。



支援者のみなさまとできること

ReBitは、日本初となるLGBTQフレンドリーな就労移行支援事業所(障害福祉サービス)を運営しています。LGBTQと福祉の双方の専門性を活かし、支援者の方々とともに、誰もが安心して支援を受けられる社会の実現を目指しています。

1. 支援者・福祉事業者向け研修や無料資料の提供

支援職や福祉事業者の方々向けに、LGBTQへの支援に関する無料eラーニングや資料を提供。日々の支援にすぐに活かせる内容となっています。



2. LGBTQへの直接支援

これまで、障害や生活困窮等の複合的困難を抱えるLGBTQを中心に、のべ2万人への支援を届けてきました。ご本人からのご相談はもちろん、支援者の方からのご相談も無料でお受けしています。リファー先や連携先としていつでもお気軽にご相談ください。

ReBitとの協働事例など
詳細はこちら▼



ReBitが携わる書籍・教材

児童・生徒向け

書籍

「ふつう」ってなんだ？
LGBT について知る本
薬師実芳ほか（2018）
学研プラス◎



書籍

いろいろな性、
いろいろな生き方
渡辺大輔（2016）
ポプラ社◎



書籍

「これがじぶんのいろ」シリーズ
ぶん・え：スコット・スチュアート
やく：なかじまじゅん（2025）
ゆまに書房◎



書籍

みんなで知りたい
LGBTQ+（全5巻）
電通ダイバーシティ・ラボ（2022）
文研出版



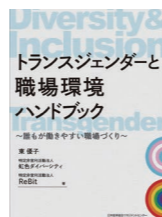
書籍

みんながってみんなステキ：
LGBT の子どもたちへ届けたい
未来
高橋うらら（2021）
新日本出版社◎



書籍

トランスジェンダーと職場環境
ハンドブック：だれもが動きや
すい職場づくり
東優子ほか（2018）
日本能率協会マネジメントセンター◎



書籍

LGBT 問題と教育現場：
いま、わたしたちができること
（早稲田大学教育ブックレット）
学文社
（2015）◎



◎ 全国の書店でご購入いただけます
○ stores にてご購入いただけます
<https://rebitlgbsupporters.stores.jp>
● ホームページより無料でダウンロードいただけます
<https://rebitlgbt.org/materials/>

すべての教材はこちらから
ご覧いただけます▶



独自資料

冊子

キャリア支援者のための
LGBTQ ハンドブック
キャリア支援者や企業人事等に向
けた、LGBTQ へのキャリア支援
のための資料。ReBit（2021）●



冊子

LGBTQ も安心して利用
できる福祉サービスのため
にできることハンドブック
ReBit（2024）●



教材キット

Ally Teacher's Tool Kit シリーズ

LGBTQ にとっても安全な学校づくりを推進する、教職員向けの3種類の資料キット。先生がLGBTQ について学び、安全な学校環境や相談体制を整えるための「安心な学校をつくろう編」と、小学校高学年・中学校でLGBTQ に関する授業を実施する「授業しよう編」があります。

ReBit ○●



中学校版

小学校高学年版

安心な学校をつくろう編

調査報告

LGBTQ 子ども・若者調査
2025
ReBit（2025）

調査報告

多様な性に関する授業がも
たらす教育効果の調査報告
ReBit（2018）

調査報告

LGBTQ 医療・福祉調査
2023
ReBit（2023）

調査報告

学校における性的指向・
性自認に係る取り組み及び
対応状況調査
ReBit（2022）

調査報告

支援者のLGBTQ
意識調査
ReBit（2023）

すべての調査報告はこちら
からご覧いただけます▼



人事・就労 支援者向け

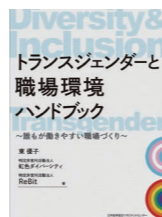
書籍

LGBTI の雇用と労働：
当事者の困難と
その解決方法を考える
三成美保ほか（2019）
晃洋書房◎



書籍

トランスジェンダーと職場環境
ハンドブック：だれもが動きや
すい職場づくり
東優子ほか（2018）
日本能率協会マネジメントセンター◎



教職員・ 保護者向け

書籍

改訂新版 LGBT ってなんだろ
う?:自認する性・からだの性・
好きになる性・表現する性
薬師実芳ほか（2019）
合同出版◎



書籍

教育とLGBTIをつなぐ：
学校・大学の現場から考える
三成美保ほか（2017）
青弓社◎



支えてくださった企業/団体のみなさま



財務諸表及び計画

2025年度の経常収益は1億7,245万円となり、前年度比348万円、2%の減少となりました。ダイバーシティを取り巻く社会状況や企業・団体の経営環境が変化するなか、ReBitの経営にもその影響が及ぶ結果となりました。この状況を受け、福祉事業をはじめとする収益基盤の強化および、共に進んでくださる個人継続寄付者様の増加に、2026年度は邁進いたします。一方で、経常費用は1億8,727万円となり、前年度比4,644万円、33%の増加となりました。この費用増加の主な背景には、ReBitが「LGBTQ分野の担い手への中間支援組織」として全国の活動団体に助成を行ったこと、また、当該事業を着実に推進するためにチーム体制を強化したことがあります。この結果、当期経常増減額は1,482万円の減少となりました。これはLGBTQ分野全体の基盤強化と、将来的な社会的インパクトの創出に向けた投資と位置づけています。

2026年度予算は、経常収益2億4,381万円、経常費用2億1,636万円、当期経常増加額2,745万円です。収益・費用ともに2025年度より増加となる見込みです。2026年度は、引き続き「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づき、一般財団法人日本民間公益活動連携機構より指定された資金分配団体としての役割を通じて、全国の多くの活動団体や自治体、企業の皆さまと連携し、新たな価値を共創してまいります。

活動計算書 (2025年4月1日～2026年3月31日) 単位:円

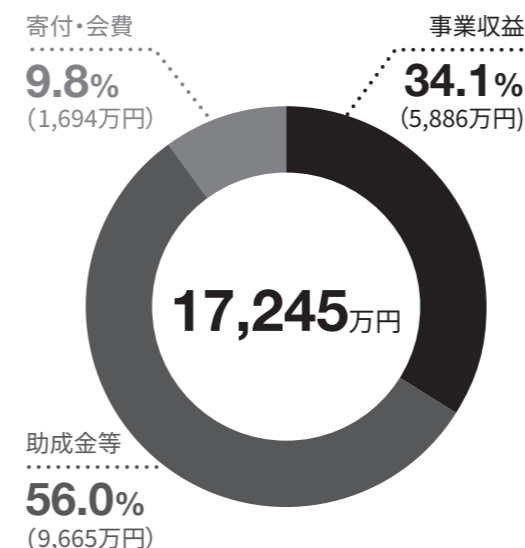
科目	2024年度	2025年度	前年度比増減 (24-25年度)	2026年度 (予算)	前年度比増減 (25-26年度)	
経常収益	受取会費	145,000	115,000	-30,000	110,000	
	受取寄附金	24,794,074	16,822,080	-7,971,994	20,985,000	
	受取助成金等	76,014,759	96,653,550	20,638,791	149,991,033	
	事業収益	74,863,715	58,406,001	-16,457,714	72,693,447	
	その他収益	124,625	457,290	332,665	40,000	
	経常収益 計	175,942,173	172,453,921	-3,488,252	243,819,480	
経常費用	事業費	人件費	77,236,204	82,475,902	5,239,698	80,571,786
		その他経費	56,130,581	95,029,035	38,898,454	122,325,492
		事業費 計	133,366,785	177,504,937	44,138,152	202,897,278
	管理費	人件費	2,477,229	5,303,988	2,826,759	8,631,535
		その他経費	4,983,964	4,467,917	-516,047	4,831,569
		管理費 計	7,461,193	9,771,905	2,310,712	13,463,104
	経常費用 計	140,827,978	187,276,842	46,448,864	216,360,382	
	当期経常増減額	35,114,195	-14,822,921	-49,937,116	27,459,098	
	経常外収益	0	0	-	0	
	経常外費用	1	0	-	0	
当期正味財産増減額(税引後)	34,304,194	-14,962,921	-	27,459,098		
前期繰越正味財産額	227,130,089	261,434,283	-	246,471,362		
次期繰越正味財産額	261,434,283	246,471,362	-	273,930,460		

* 次期繰越正味財産額のうち、一部を「LGBTQキャリア支援積立特定資産」として計上しています。

貸借対照表 (2026年3月31日現在) 単位:円

科目	金額	
資産の部	現金・預金	256,846,130
	売上債権	16,671,047
	棚卸資産	16,930
	その他流動資産	3,967,096
	流動資産 計	277,501,203
	有形固定資産	4,303,994
	投資その他の資産	5,857,440
固定資産 計	10,161,434	
資産の部 合計	287,662,637	
負債の部	未払金	12,927,813
	未払法人税等	140,000
	未払消費税等	176,600
	前受助成金	27,067,033
	預り金	879,829
	流動負債 計	41,191,275
負債の部 合計	41,191,275	
正味財産の部	前期繰越正味財産額	261,434,283
	当期正味財産増減額	-14,962,921
	正味財産の部 合計	246,471,362
負債及び正味財産の部 合計	287,662,637	

2025年度収益の内訳



2025年度費用の内訳

